

「クリスチャンのGPS」

～ 信仰と希望と愛 ～

Iコリ13:2-13

■ あなたはどこに立っていますか？

カーナビや携帯電話についているGPSという機能。これは自分の居場所が分かるという素晴らしい機能です。では、あなたの生きる道で今、どこに立っているか理解できていますか？例えばあなたがここに存在していること、それは当たり前のことです。しかし自分は何のために生きているか、自分の人生の場所はどこなのか？私たちが当たり前と思っていることは案外よく分かっていないことが多いのです。神様はこの世の基を据えられたときから私たちに法則を定めておられ、私たちは自分たちが決めたルールでなく、神様が定めたルールの中で生きています。聖書の中で一番大事な法則は「種蒔きと刈取りの法則」です。この法則に従おうとするならば、自分がどこにいてどこにどんな種を蒔いているのかわらなければいけません。そして、神様が定めたルールを無視して生きることはできません。それを無視した結果、私たちの住む世界では生態系が崩れ、異常気象が起り、戦争を繰り返すこととなりました。なぜなら戦争は以前は宗教観の違いから起こったかもしれませんが、現在この世で起っている戦争の理由は食料、水、資源などの奪い合いからです。分け与えれば解決することもあるにもかかわらず、自分勝手に人は争ってしまっているのです。確かに、私たちが生きるべき社会のルールに従わなければいけない部分もありますが、しかし大事なほどのような状況にあっても自分が何を土台とし生きていくかです。私たちは常に自分の立ち位置を確認し、主体性を持った（＝聖書に基づき神様を中心とした）歩みを行わなければいけません。あなたは世のルールに従うことで、目に見えない大きな見失いを犯していないでしょうか。

■ 世々にわたる祝福される法則パート2 一粒の麦

私たちの住む世界は不完全な環境にあります。なぜなら法則があってもその法則に従わずに生きているからです。それはアダムとエバが嘘をついたとき、主体性の主が神から人へと変わってしまったときにおきました。私のために生きるようになると自分勝手な歩みになってしまう。あなたは心の中心をどこに置いていますか？この世の問題は主体性を見失い自分の思いで歩んでしまっていることです。あなたは聖書の中の常識で歩んでいますか。もしも常識の中心が私となっているならば主体を神様に委ねましょう。そうでなければIコリのみことばも愛は寛容ではない、人が困っていても助けない。人が良くなると羨む、しょっちゅう礼儀に反し、見返りを求め、仕返しを願って…そんな歩みになってしまう。もし今、どう歩んだら良いか分からなくなり、自分がどこにいるのか分からなくなっているならば、今日、あなたの場所を示す信仰と希望と愛について学んでいきましょう。私たちは聖書を知らず知るほど、自分が聖書の常識に立たず逆行して生きているということに気がかされます。あなたはクリスチャンっぽい歩みになっていませんか。そのようなとき私たちがみことばをGPSとして立つ必要があるのです。私たちの多くは相手を信じるけれどギブ&テイクで人々と関係をもちます。しかし、イエス様がされたのはギブ&ギブで愛し、かつ信じるという世の中の常識ではありえないことでした。しかしこれが聖書の常識であり、私たちはこちらを選ぶ人となるようにとされています。本当のクリスチャンになりたい人はWWJDを心に留め、イエス様のよう生きるという決心をしましょう。そして良いときも悪いときも一粒の麦として生きることを選んでいきましょう。

■ 井深八重の生涯から学ぶ

井深八重は国会議員の父、ソニー創設者を親戚にもつ女性で、新島襄の大学（同志社大）を卒業後は英語の先生になる予定でした。しかしそんな矢先ハンセン病と診断され、家族を失い、名前さえも失い、非情な差別を受けるという過酷な人生を送ることとなります。そのような中であつても彼女は自分がされてきた差別を恨みませんでした。再診の結果ハンセン病ではなかったけれども元の生活に戻れないという状況になってでもです。彼女は宣教師兼医師の牧師と共にハンセン病の看護所として施設に残りハンセン病の病を看護することを決めたのです。そんな彼女のテーマは一粒の麦でした。本当のクリスチャンとは彼女のように自分を律し、人を排除しようとする人々を愛することができる人々をいいます。一人ひとり痛みは違いますが、自分が痛みを通るとき相手の痛みが分かるようになります。愛によって傷を癒され、悲しみを慰められたとき人はそれを強さとするすることができます。ですからもし過去に悲しみによる傷があるならばそれが素直認めなければいけません。イエス様は私たちの痛みを負って十字架にかかってくれました。もし私たちがその姿を忘れてイエス様の良い姿のみを追求するならば、私たちは弱みを見せられずいつも勝たなければならぬクリスチャンになってしまいます。こうしていつの間にか偽りの自分を持つようになっていませんか。しかしクリスチャンはありのままの自分です。自分の心にもし覆いがあるならば、本物を失ってしまいます。頑張って奉仕する、自分の思いとは違ふけれど指摘されるからやる・・・宗教はそれで私たちが縛りますが、それは偽りです。しかし私たちが教会に来る本当の

理由は癒されるためであり、癒された後に本当の自分を見つけるためです。教会は失敗した人が失敗したことを認められる場所であり、私たちは赦された罪人にすぎません。本当は劣等感でいっぱいなのにそれを隠し自分の心を偽って頑張っていないでしょうか。そんなあなたにはあなたの立ち位置GPSを確認しなければいけません。もし自分を偽るならば信じることはできません。あなたの過去の恥を恥と思わずまた隣人を同じように裁かないようにしましょう。その人のマイナスな部分を互いに負い合いかわるのが教会です。神様が礼拝を一人ではなく大勢でするようになされたのはそのためです。教会は皆が同じように行動するためではなく、多様性をもってその人が本来の色に帰るために神様が与えてくださった場所なのです。ですから～一粒の麦、地に落ちて死なずば、唯一つにて在らん。もし死なば、多くの実を結ぶべし～とあるように、教会に来て自分に死ななければいけません。

■ ①信じるという生き方 理屈と納得との戦い

理屈と納得は信じる心を奪い去ります。あなたの中の常識に縛られて、自分の理屈に沿わないと納得できない、やりますと口では言っても心が従わない、あの人の言葉だときけない、言い方で聞けたり聞けなかつたりするということがないでしょうか。ではイエス様を信じているのはなぜということをおあなたは理屈で答えられますか？神様が語っていても分からなかったパリサイ人のようではありません。理屈を取りましょう。理屈があつても人は変わりません。今までの私の経験が全てと思わず、聖書にある言葉を神様の常識として納得して行いましょう。あなたが心から祈るとき、聖霊様がなにごとにもかかわらないか間違っているかを教えてください。それを信じて選ばないあなたを通してでしか変えられない人はずっと変わることができません。聞く耳をもって主体的神様が中心で信じるという生き方を歩みましょう。

■ ②死んだものへのギフト希望！！

過去をもったままの人に希望はありません。多くの人は過去を土台に見返そう生きている。でもそれは間違っています。過去を捨てましょう。もしあなたが既に洗礼を受けているならば、洗礼は何のためにしたのでしょうか。洗礼とはなんでしょう。それは過去の自分に死に、今までの自分の価値観で生かないという自分と人に対する宣言です。それなのにまだ自分が生きているとしたら、一回は殺したのですから、あとは今自分は信じているか、希望を持っているかで判断しましょう。これが分からないとあなたの居場所は分かりません。希望がないならまだ古いあなたは死んでないです。私たちの病をこの身に背負ってくださった方がいらっしゃるので、今までももらえなかつたことに相手を責めて生きるのではなく、過去に死んで主の愛のうちに希望を持って歩みましょう。

■ ③愛するという生！！

愛したいけれど愛せないという思いは誰しももつものであり、この思いと私たちは生涯闘っていきます。しかしクリスチャンのすごいところは、そのような中にあるとき愛しているから戻ろうという手を選ぶことができるということです。自分は全然悪くない、相手が悪いという思いが心を支配しそうになると、それでも謝ることができるのは愛しているからこそできること。闘いながらも回復しようとする。これが愛に生きるということです。中心にある感情的な思い、自分は悪くないと言ってくる声に負けずはいけません。その声に聞いたら偶像礼拝の罪、その時に決断できるのはあなたしかいません。あなたは神様に自分をコントロールするように言われています教会は一人ひとりの口、表情、態度を共に戒め合い、磨き合い成長していくところです。ですから神様の前に信仰を持って信じる、愛するとう決断をしていきましょう。もしあなたが、神様が自分をいつか愛してくださる。その時を待っていますという思いであるならばいつまで経ってもかわりません。電波はつかんでこない場所が分からないように、これは自分から探していくものなのです。求めれば必ず与えられます。ですから、あなたの過去の傷を取ってくださることを願ひ、神を愛し自分を愛し隣人を愛するという神様からの命令を守っていきましょう。

さいごに

神様が私たちに与えてくださった自分で決断するという権利。これによって私たちは種を蒔き続ける決断をすることができま。世々にわたる祝福される法則を私たちの代で終わらせない決断をすることができます。そして私たちは信じる決断をすることができます。神様のことばを無条件に信じ、自分の心に与えられた良心とみことばによって生きることを選ぶことができます。『すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。愛は決して絶えることがありません。・・・』とみことばにあるように、自分に生きようとする自我や諦めを捨てて、信仰と希望と愛の歩みを成し遂げる決断をしていきましょう。

(要約者:平澤 瞳)